

【教育目標】 助け合う子ども 考える子ども たくましい子ども

【重要課題】 ①「学ぶ喜び」 ②「成長する喜び」 ③「人とつながる喜び」を実感。

① Sence of Self-Worth 自己有用感

（「集団や他者とのかかわりの中で、自分の役割を果たし、誰かの役に立っている（必要とされている）」と実感すること。）

- ・一人ひとりの発言やアイデアを認める、生かす
- ・一人ひとりに役割、活躍の場をつくる
- ・自他を認め合う場をつくる（自己評価、相互評価の充実）
- ・ペアやグループでの活動 ・対話的な活動の充実
- ・特別活動の充実（学級活動、行事、クラブ・委員会）

② Self-Actualization 自己実現

（自らの可能性を最大限に発揮して「自分らしく生きる」とともに集団や社会の一員として貢献・評価されることをめざすプロセス。）

- ・みんなが（で）、わかる、できる、参加する授業
- ・目標、めあてと、振り返り ・見通しをもたせる段階の重視
- ・問題解決的な学習、探究的な学び ・選択や判断の場面設定
- ・体験的な活動の充実、具体的な調査活動

⑤ Altruism 利他性

（自分の幸せだけでなく、周囲の他者や地域・社会の幸せも大切にすること）

- ・学びを生活や社会に生かす
- ・他の人や社会を支える人たちの姿に学ぶ
- ・係、当番、委員会活動の充実
- ・奉仕活動の充実 ・道徳の時間の充実

③ Collaboration 協働

（対等な立場で、共通の目的や課題解決のために、それぞれの強みや資源を持ち寄り、協力して取り組むこと）

- ・一人ひとりのよさを生かす（子どもも、大人も）
- ・協働的な問題解決、探究（学びも、生活も）
- ・特別活動の充実→よりよいクラス、学校づくり（学級活動、行事、クラブ・委員会）

④ Relation かかわり

（多様な他者とかかわり、違いやよさを互いに認め合い、尊重し合いながら、よりよく活動に取り組む。）

- ・多様な他者とかかわりながら取り組む場
- ・異学年交流の充実 ・かかわりを広げ、深める場づくり
- ・自然とかかわり

家庭

つかむ

見通す

調べる/取り組む

まとめる/発表する

いかす/つなぐ

地域・関係機関